国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和５年３月２７日
関　東　運　輸　局

バス、タクシー、トラックの事故防止動画を初めて制作しました

～事故防止には事業者の努力と皆さまのご協力が必要です！～

関東運輸局では、自動車運送事業者団体及び警察と連携して、バス、タクシー、トラックの特徴的な事故削減を推進するため、調査・分析等を行い、事故防止のための動画を初めて制作しましたので、お知らせします。

今回制作した動画は、自動車運送事業者における社内教育での活用を想定したものとなっていますが、事故の分析から、事業者の取り組みだけでは事故を防ぐことが困難な場面があることがわかっており、皆さまにもご協力をお願いしたい内容も含まれています。

特に、皆さまにお願いしたいことは、次のとおりです。

・降車の際はバスが停車するまで席を立たないこと

・つり革にしっかりおつかまりいただくこと

・路線バスの発進の際、バスの進路変更を妨害しないこと

・酒に酔って路上に寝込まないこと

・自転車等による歩道から車道への急な飛び出しをしないこと

関東運輸局では、今後とも自動車運送事業者団体及び警察と連携して、自動車運送事業者における事故防止に係る取り組みをサポートし、「事業用自動車総合安全プラン２０２５」に基づく事故削減目標の達成に向けた取り組みを推進して参ります。

＜動画の概要＞

１．乗合バス車内事故削減に向けて：別紙１

２．タクシーの路上横臥事故削減に向けて：別紙２

３．安心安全輸送のため、トラック輸送業からのお願いです：別紙３

各動画へのアクセスは関東運輸局ホームページからできます。
https://wwwtb.mlit.go.jp/kanto/jidou_gian/hoan/index.html

【問い合わせ先】
関東運輸局自動車技術安全部保安・環境課　吉池、金子、中島
電話　045-211-7256（直通）　FAX 045-201-8813

【配布先】
神奈川県政記者クラブ、横浜海事記者クラブ、都庁記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、群馬県政記者クラブ、千葉県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、物流専門紙、ハイタク専門紙

別紙 1

1． 乗合バス車内事故削減に向けて - YouTube

関東管内における乗合バスの人身事故は減少傾向にあり、車内事故についても同様に減少してきましたが、令和 3 年に車内事故件数が前年より大きく増加したことから、今年度、乗合バスに特徴的な「車内事故」防止のための取り組みとして、「添乗調査」を拡充して実施しました。

添乗調査は、第三者の視点から運転者の実際の運転状況を把握し、運転者教育に役立てることを目的に、平成 30 年度から、関東運輸局と関東地区バス保安対策協議会と合同で行っており、運転者によるマイク案内、着席確認、右左折時の確認などが適切に行われているか、走行速度や交差点への進入・通過が適切であるかなどを確認しています。添乗調査の結果、未だに、マイク案内、着席確認及び扉の開閉時の安全確認において不十分な事例が散見されるため、運行中の安全確認等の再徹底が必要であると考え、教育用資料として好事例を取りまとめました。

【人身事故及び車内事故件数の推移】

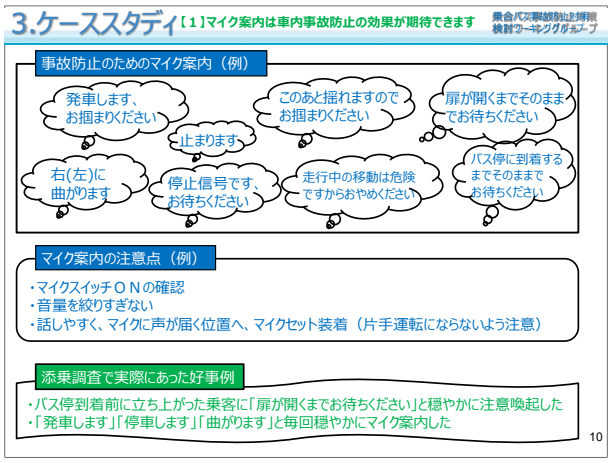
	人身事故件数		車内事故件数	
年	関東	全国	関東	全国
平成29年	414	1,217	100	412
平成30年	380	1,141	76	352
令和元年	383	1,040	85	318
令和２年	341	813	87	265
令和３年	328	780	107	303
合計	1,846	4,991	455	1,650

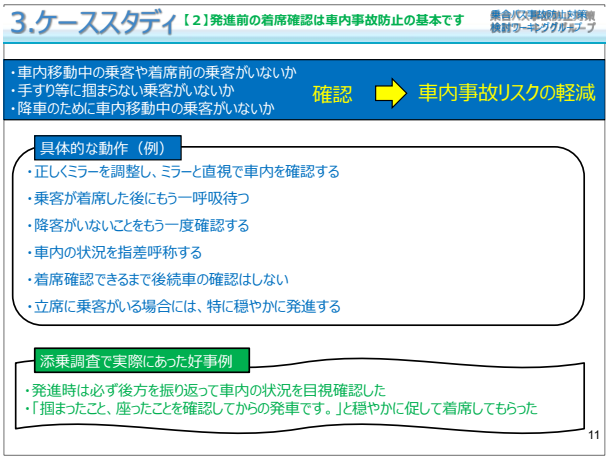
出典：自動車事故分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

【添乗調査項目】

調査項目	内容
マイク案内	乗車時、走行中、降車時の案内方法等
着席確認	着席前発進、つり革確認等
前扉、中扉の開閉	見切り操作、乗客の確認方法等
走行速度	制限速度超過等
右左折時の確認	歩行者妨害の有無等
交差点の進入・通過	進入速度、無理な黄色信号進入等
車間距離	社内規定の励行状況等
挙手	社内規定で禁止の場合
運転姿勢等	片手運転、シートベルト等

【教育資料：乗合バス車内事故削減に向けて】（抜粋）





別紙２

２．タクシーの路上横臥事故削減に向けて - YouTube

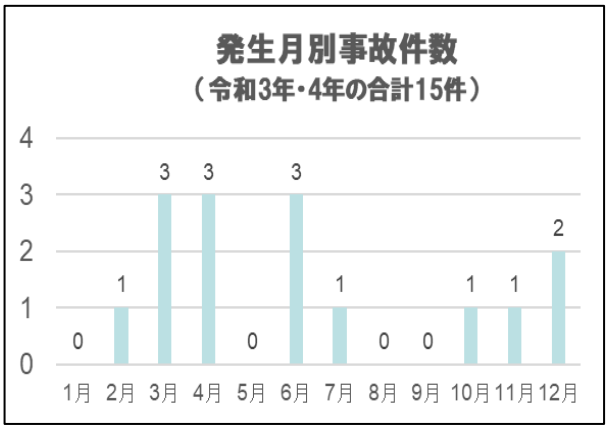
飲酒等により路上で寝込んでしまった路上横臥者を轢過する事故があとを絶たず、特に年度末、新年度や年末に多発している傾向があります。

夜遅くから未明にかけて運行することが多いタクシーにおいて、このような悲惨な事故を防止するため、本年２月に、関東運輸局とタクシー事業者と合同で「タクシー事故防止対策検討会」の取り組みとして、実車とダミーを用いた「夜間ヘッドライト見え方体験会」を開催しました。

本検討会では、実車を使用して、ハイビームの有効性等を認識してもらえるよう、様々な走行条件（ライトの点灯状態、走行速度の違い、カーブ等）で見え方の違いを体験してもらいました。

また、体験会の映像を通して、運転者や運行管理者に運転者が体験したダミーの見え方の違い、ハイビームの有効性等を理解してもらい、路上横臥事故の防止に努めていただくことを目的に、体験会の概要を動画として取りまとめました。

【タクシーの路上横臥事故発生状況】

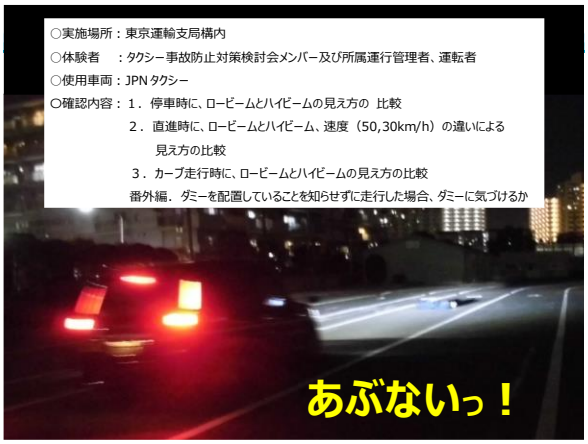


【事故の原因】

原因	件数（複数あり）
前方不注意、漫然運転	9
スピードの出し過ぎ	3
交差点右左折時等の安全確認不足	3
ロービームでの発見遅れ	2
対向車のライト（ハイビーム）に気をとられた	1

データ引用元：自動車事故報告書（速報値）

【体験会概要】



【体験会まとめ】

- **ロービームでは、50メートル先のダミーを確認できないが、ハイビームでは確認できた。**
- **低速の方がダミーの発見から停止までの距離が短かった（ロービームで走行）。**
- **ハイビームでは、ロービームでの走行と比較して、ダミーを早く発見でき、発見から停止までの距離が短かった。**
- **カーブでは、ロービームとハイビームの見え方に大きな差は確認されなかった。**
- **交差点を右折した直後に設置したダミーに気づくことができなかった。**
- **路上に人が倒れている場面があることを想定しておくことが重要である。**

別紙３

３． 安心安全輸送のため、トラック輸送業からのお願いです- YouTube

近年、事業用自動車の追突事故発生件数は、減少傾向にありますが、「事業用自動車総合安全プラン２０２５」において、トラック事業の個別目標として、追突事故を3,350件以下にすることを定めています。

関東運輸局では、削減目標達成に向けて更なる取り組みが必要と考え、関東トラック協会と合同で設置した「関東圏における自動車事故防止対策検討会」において、追突事故防止の推進のため、道路を利用される皆さまに向けた動画を制作しました。

この動画は、トラック事業者から実際に起きた追突事故のドラレコ映像やヒヤリハット事例の動画を収集し、まとめており、歩行者や自転車による急な飛び出し、一般車両によるトラック前方への急な割り込みなど、危険性を広く知ってもらうために取りまとめたものです。

「道路を利用される皆さまへ」（動画より引用）

トラックの視界、内輪差などを紹介するとともに実際のドラレコ映像やヒヤリハット事例を活用し、トラック前方への急な飛び出し、割り込みなどの危険性が分かるような構成とし、注意をお願いする動画です。

（ナレーション１）
無理なすり抜けはおやめください。
ドライバーが予想できない速度で、進路変更されたり、目の前に突然出てこられると、対処出来ない場合もあります。

（ナレーション２）
商店街の細い路地を走行している場面です。
前方左側から自転車が飛び出しました。